

ベイズ統計による数理モデルの ヴァリデーションとモデル選択

総合研究大学院大学 複合科学研究科 統計科学専攻
柏屋 滋

1 モデルパラメータの推測統計

ベイズ統計学 (Bayesian statistics) では、パラメータ θ の事前確率密度関数 (prior probability density function) $\pi(\theta)$ に対して、事後確率密度関数 (posterior probability density function) $\pi(\theta|y)$ を、ベイズの公式 (Bayes' theorem) から計算する。

$$\pi(\theta|y) \propto f(y|\theta)\pi(\theta) \quad (1)$$

任意の実数 a に対して、関数 $I(x;a)$ を定義関数と呼ぶ。

$$I(x;a) = 1 \text{ if } x \geq a \quad [= 0 \text{ otherwise}] \quad (2)$$

n 個のデータ y_i が与えられたとき、経験分布関数を定義する。

$$\hat{F}(y|\theta) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n I(y; y_i) \quad (3)$$

対応する確率密度関数は、分布関数の偏微分で与えられる。

$$\hat{L}(\theta|y) \equiv \hat{f}(y|\theta) = \frac{\partial \hat{F}(y|\theta)}{\partial \theta} \quad (4)$$

多数の粒子 (particle) 「粒子」 (particle) δ_a で $I(x;a)$ を代表し、パラメータ θ の確率分布を表現する。また、事前分布 $\pi(\theta|y)$ として、超一様分布列擬似乱数を適用する。

2 ベイズ統計によるパラメータ推定

非線形 (nonlinear) かつ動的 (dynamic) なプロセスモデルの例として、酵素又は触媒により、尿素 (NH_2CONH_2) が二酸化炭素 (CO_2) とアンモニア (NH_3) に分解される化学反応を考える。



実験データに対し、二酸化炭素濃度 $C(t)$ の時間変化の式を仮定する。(単位: モル%)。

$$C(t) = 100 \times [1 - \exp(-\theta_1 t)(1 + \theta_1 t)] \quad (6)$$

$$C(t) = 100 \times [1 - \theta_2 \exp(-\theta_1 t)/(\theta_2 - \theta_1) + \theta_1 \exp(-\theta_2 t)/(\theta_2 - \theta_1)] \quad (7)$$

$$C(t) = 100 \times [1 - \theta_2 \exp(-\theta_1(t + \theta_3))/(\theta_2 - \theta_1) + \theta_1 \exp(-\theta_2(t + \theta_3))/(\theta_2 - \theta_1)] \quad (8)$$

t	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20
C	5.68	22.4	35.6	47.0	57.6	65.9	72.0	78.6	83.4	86.1

表1 Gale and Eadie による尿素加水分解の実験データ

前述のポピュレーション・モンテカルロ的手法 (population Monte Carlo) により、各モデルのパラメータを推定することができる。尚、ベイズ統計では、パラメータの事後平均の計算が可能だが、MAP (maximum a posteriori) 推定とすれば、最尤推定と一致する。

推定方法 パラメータ	最尤推定			ベイズ推定: 事後平均		
	θ_1	θ_2	θ_3	θ_1	θ_2	θ_3
Model 1 (式 9)	0.1910	—	—	0.1903	—	—
Model 2 (式 10)	0.1098	0.5283	—	0.1118	0.4892	—
Model 3 (式 11)	0.1185	0.3355	0.6948	0.1087	0.7058	-0.392

表2 Baileyらによる提案モデルのパラメータ推定

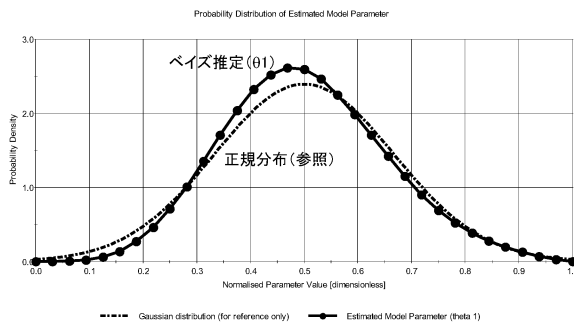


図2 パラメータ θ_1 の事後確率分布

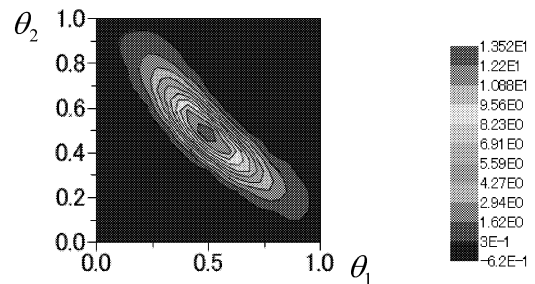


図3 パラメータ θ_1, θ_2 の事後確率同時分布

3 情報量基準によるモデル選択

3-1 AIC (Akaike Information Criterion: 赤池情報量基準)

$$AIC_k = -2 \sum_{i=1}^n \log f(y_i | \hat{\theta}_k) + 2p_k \quad (9)$$

3-2 BIC (Bayesian Information Criterion: ベイズ情報量基準)

$$BIC_k = -2 \sum_{i=1}^n \log f(y_i | \hat{\theta}_k) + p_k \log n \quad (10)$$

3-3 DIC (Deviance Information Criterion: 偏差情報量基準)

$$DIC \equiv \bar{D}(\theta) + p_D = D(\bar{\theta}) + 2p_D \quad (11)$$

$$D(\theta) = -2 \log f(y | \theta) + 2 \log h(y) \quad (12)$$

$$p_D \equiv \bar{D}(\theta) - D(\bar{\theta}) \quad (13)$$

4-4 モデル選択の例 (model discrimination: example)

より小さい情報量基準値ほどモデルの適合度が高いと見做す。2 項のプロセスモデルの場合、AIC, BIC, DIC 何れの情報量基準に照らしても、Model 2 が合理的モデルとして選択される。

情報量基準	AIC	BIC	DIC
Model 1 (式 9)	72.7	70.7	+0.033
Model 2 (式 10)	12.3	9.6	-0.041
Model 3 (式 11)	13.3	10.6	+0.206

表3 情報量基準によるモデルの評価